



■最近の話題

高校生を対象とした現場見学会を開催しました

令和4年11月2日、五所川原農林高等学校環境土木科の生徒29名を対象に、現在工事実施中である車力排水機場えぞがたての更新事業や狄ヶ館地区のほ場整備事業に係る現場見学会を行いました。

この見学会は、農業土木を学ぶ学生を対象に、日頃見る機会の少ない工事現場での見学を通じて土地改良事業の目的や効果についての理解を深め、土地改良関連業種への就業促進や進路選択につなげることを目的に青森県が主催したもので、関係する建設業者・コンサルタントの方々にもご協力いただき実施しました。

見学会では、西北地域県民局の職員から事業概要や排水機場の役割、ほ場整備の目的や効果などについて説明があったほか、実測研修として、排水機場では建屋内部の計測を、ほ場整備中の水田ではデジタルレベルを使用した測量を体験してもらいました。生徒たちは、更新事業やほ場整備事業の必要性に加え、排水の仕組みと排水機場の役割などを理解できた様子でした。

今回の現場見学会が、今後、生徒たちの進路選択の参考となれば幸いです。



排水機場での説明の様子



デジタルレベルでの測量体験

流域治水に係る研修会を開催しました

令和4年11月11日、青森県農村振興技術連盟主催による「令和4年度技術力向上研修会」が青森市で行われました。

今回は、「流域治水の推進に向けて」をテーマとし、基調講演では、新潟大学の吉川夏樹教授を講師に、「流域治水における田んぼダムの可能性と取組を支える技術」と題し講演していただきました。講演の中で、排水柵をとりつけた水田に雨水を一時的に貯留しゆっくりと排水することによって、排水路や河川の洪水量のピークをカットできることや、取組推進に当たっては、適地を見極めながら実施する必要があること、協力していただく農家に対するインセンティブが必要であり、「多面的機能支払交付金」が有効であるなどの説明がありました。

このほか、優良工事の事例発表や青森県における流域治水の取組状況の情報提供なども行われました。



田んぼダムについて講演する吉川教授

■「環境公共」事例紹介

粒ヶ谷地地区(三戸郡五戸町) ～ほ場整備を契機とした新たな産地づくりの取組～

1 地区の概要

つぶげやち地区は、三戸郡五戸町の中央部に位置し、五戸川左岸沿いに広がる約31.0haの水田地帯です。かつては小区画かつ不整形で、経営農地が分散していることに加え、狭小な耕作道や用排兼用の土水路など、高い農業経営を展開する上での課題となっていました。これらの課題解決に向け、規模拡大志向の担い手農家への農地集積、大型機械の導入による生産の省力化・低コスト化を図るため、平成29年度から令和5年度にかけて、経営体育成基盤整備事業を実施しています。



整備後のほ場

2 環境公共の取組

本地区は、水はけが悪く野菜生産に向かなかったことから、暗渠排水の整備を行っています。

暗渠排水の被覆材には一般的にもみ殻が使用されていましたが、県では地場資源であり耐久性にも優れているホタテ貝殻の活用を推奨し、「持続可能で循環型の農林水産業の実現」を目指しています。



ホタテ貝殻を活用した暗渠排水の整備

3 かぼちゃ栽培の取組

暗渠排水の整備により、野菜の生産が可能となったことから、県農産園芸課所管事業である『「冷凍野菜」産地創出チャレンジ事業』の試験ほ場として、本地区が選定され、今年度からかぼちゃ栽培の取組を始めています。この事業は大区画水田を活用した野菜の産地づくりと、加工用野菜の取組拡大による収益性の高い水田農業の確立を目的としたもので、農家の皆さんの所得向上に繋がることが期待されます。



半自動移植機実演会の様子

4 最後に

本地区の区画整理は完了し、受益者の皆さんは整備されたほ場で耕作を始めています。今年度、本県では度重なる豪雨に見舞われ、本地区でも大雨が続きましたが、整備された暗渠排水のおかげで排水性が改善されたため、問題なく作物が収穫されました。試験ほ場で作付されたかぼちゃも無事に実り、今後の生産性向上に大きな期待が寄せられます。



収穫されたカボチャ